

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	利根沼田子ども発達支援センターリズム		
○保護者評価実施期間	令和7年年1月27日	～	令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	令和7年年1月27日	～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○訪問先施設評価実施期間	令和7年年1月27日	～	令和7年2月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	(回答数)	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験の豊富な訪問支援員が配置されている。	担当児童への訪問支援が最重要であるが、訪問施設からのさまざまな質問・相談に対応している。一方的な助言ではなく、訪問施設の支援の実際に合わせて一緒に考える関係性を大切にしている。	訪問支援員のスキルアップのための情報交換、訪問支援時の安全対策等に情報共有がしやすい打ち合わせなど時間確保を検討する。
2	地域の規模の もあり、多く支援施設と顔の見える良好な関係を築きやすい。	関係機関連携研修会(月1回開催)での地域の支援者との関係作りをしている。	年度初めの他機関への広報の方法を検討し、市町村の教育・保健・医療・福祉等の協力を得て参加者のすそ野を広げている。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	二一ズに比較して対応職員が不足している。	訪問支援員の確保が困難である。	少人数での対応をより有効に進めるため、職員間の情報共有方法を工夫し、実施する。
2	保育所等訪問支援事業利用開始まで到達しない場合も多い。	実際に利用したことのある訪問施設以外では、地域の中での本事業の内容・適応・利用手続き等について知られていない。	地域全体のインクルージョン力向上を考え、市町村の健診等からの継続した保護者との関係構築(発達相談会など)。パンフレット等を用いて説明する他に、事例検討・報告を協議会等でさせていただくことも必要か。
3	訪問支援員により、訪問支援の実際、訪問施設との関係性、ご家族への報告方法等が異なる可能性がある。	訪問支援上の課題が生じた際の訪問支援員の困り感の解決方法。それぞれの訪問支援員の特徴を生かしながら、課題解決のヒントを得るための訪問支援技術向上のための計画的な研修	時間の確保が難しいので限定的となるが、複数職員での訪問支援の機会が研修の場になるのではないかと。